

2022年8月9日

日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）

2022年 第二回理事会 資料

開催日時：2022年8月9日(火) 11:30～12:25

会場：北里大学 相模原キャンパス L1号棟 6F 大会議室

出席者(50音順, 敬称略): 足達俊吾、荒川憲昭、荒木令江、岩崎未央、奥田修二郎、大槻純男、小田吉哉、川上隆雄、川島祐介、河野信、川村猛、紀藤圭治、木下英司、小迫英尊、小寺義男、小林大樹、近藤格、杉山直幸、高尾敏文、武森信暁、田中恒平、堂前直、肥後大輔、増田豪、若林真樹

欠席者(50音順, 敬称略):

1. 会長挨拶(小寺)

- コロナに伴い現理事会メンバーでは初めてのオンサイトによる理事会になった。

【報告事項】

1. 会員状況(川島)

(1) 会員数 (2022年7月19日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 507名 (個人会員:401名 ^{※1} , 個人会員(法人登録):106名) (昨年:545名、一昨年:567名、本年度新規入会者:28名)
学生会員	349名 (208名 ^{※2}) (昨年:298名、一昨年:287名、本年度新規入会者:27名)
法人会員	13社 (昨年 13社、一昨年 14社)
合計	856名+13社 (昨年:843名+13社)

※1 2019-2021年度会費未払い者 508名を除く (昨年:449名)

※2 メール不達者除外

●個人会員が減少しているが、昨年度、退会届が多く提出されたわけではなく、個人会員数は3年間以上の会費未納者を除いてカウントしている。今年度の個人会員減少は退会届が多く提出されたわけではなく、3年間以上の会費未納者の増加によって減少している。ただし、2022年7月19日に調べた結果であり、大会直前に学会費納入が増えているため、個人会員の減少は改善されていると考えられる。

●学生会員に昨年より増加しているが、メール不達者がかなりの数がある。メール不達者の整備をして正しい会員数をカウントするように整備する。

2. JPrOS2022大会(小寺)

(1) 参加人数:270名(会員203名、非会員67名)(2022年8月5日現在)

●昨年度のオンライン大会でもセッション間の休みが15分あっても短かったと報告したにも関わらず、本会ではセッション間の休み時間がとても短く、1日目の終わる時間が遅くなった。

(2) Pre-Congress Webinar: 70名

●愛媛大学の武森先生がオーガナイズして最大で75名程度が参加、その内、40%程度がJPrOS学会員、25%程度が外国の方が参加されていた。

●このような会を実施する際に学会としてどのようにアナウンス(皆さんに知らせるか)を検討する必要がある。連携する学会などのアナウンス先のメールアドレスなどを整備する。

(3) 記念講演会(8/8 ハイブリッド開催):

●オンラインで130~140名、会場で150~200名、計300名程度が参加されていた。

3. JPrOS2023 大会(小寺)(資料)

(1) 開催概要

- ・会期:2023年7月24日(月)~7月26日(水)
- ・会場:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
- ・大会長:松本 雅記(新潟大)

(2) 運営費用概算

- ・会場部屋使用料:100万円
- ・会場設備使用料等(常設設備や空調・電気代等):73万円
- ・学会運営会社(持ち込み機材、人件費等):264万円

●大会実行委員は大会ごとに全体的に入れ替わることが普通だと思われる。多様性を維持するためにも同じ人がやるのではなく、入れ替わった方がいいと思われる。

→今年度および来年度に学会側として大会登録システムなどの整備をしており、それに伴って例年と変わらないメンバーがどうしても多くなってしまった。また、本件に関しては来年度、大会長の松本先生にも伝えておく。

4. HUPO、AOHUPO 活動報告(小寺、近藤)

(1) HUPO 関連

- ・HUPO 2022: December 4-8 (Cancun, Mexico)
- ・HUPO 2022 presentation award

●presentation award は枠が20名で3名の応募しかない(補助額が1人あたり5000円)。

●海外に出張可能な組織も増えてきているので補助額の大きいトラベルアワードを復活させていいのではないかと。トラベルアワードの詳細は以下。

応募枠:4~5名

補助額:8~10万円

選考:JPrOS 理事の国際担当が行う

申し込み資格:JPrOS 会員であること、発表すること(ポスター発表でも可)、学生もしくは学位取得後8年以内

●HUPO2022の演題登録でlate submissionが可能であれば、今年度からトラベルアワードを復活させる。なお、今年度からトラベルアワードを実施する場合は、presentation awardで募集した3名には直接連絡をする。

●来年度のHUPOは韓国の釜山で開催予定です。KHUPOとは長年連携体制をとっているため、日本からもたくさん参加するようにしてもらいたい。

(2)AOHUPO 関連

●2023年のAOHUPO(シンガポール)で日本側からも協力・参加してほしいと要請があった。特に農学系のセッションでの協力が求められているため、小松先生、榊原先生などに協力を求める。農学系は紀藤先生が取りまとめる。他に疾患系に関してはJPrOS理事の国際担当が中心に取りまとめる。

5. JPrOS イニシアチブ(奥田、武森)

(1)Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)について

・科研費研究成果公開促進費について

●科研費研究成果公開促進費はコロナの影響もあって計画的に使うことが難しかった。JPDMのロゴ入りのクリアファイルやトートバックを作製して様々な学会で配布しながらJPDMの宣伝を行った。

●会員を含めて引き続きJPDMへの投稿を呼びかけ、投稿数の増大を目指す。

(2)Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)について

●現在の主な予算用途は、計算機、ストレージ、保管場所(現在は国立遺伝学研究所にサーバーを設置しているため、保管費用はかかっていない)。

●今後の運営体制とそれにかかる年間の維持費を次の理事会で報告してほしい。

(3)Top-Down Proteomics

●アジアはTop-Down Proteomicsが弱いため、武森先生を中心にイニシアチブを作ってはどうか？

→武森先生と学会側が話し合いイニシアチブ化を検討する。

(4)その他

●小寺先生より:血清、血漿のイニシアチブは動いていないので、取り下げする?あるいは他の血清、血漿の方に動いていただくかを検討する必要があることの提案があった。

6. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(木下、小寺)

(1)学会賞

・榊原陽一(宮崎大学農学部)

授賞題目「チロシン硫酸化研究から食品機能評価など農学分野へのプロテオミクスの応用」

・本田一文(日本医科大学大学院医学研究科)

授賞題目「プロテオミクスによるがんバイオマーカーの探索と社会実装基盤開発」

(2)奨励賞

- ・津曲和哉(慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター)
授賞題目「定量的ターミノミクスによるエクストドメインシエディングの大規模解析」

7. KHUPO との交換講演(小寺、近藤)

(1)2023 年について

(2)2010 年～2020 年

- 2010 年 KHUPO 山本 格、木下英司
- 2010 年 JHUPHO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)
- 2011 年 KHUPO 平野 久
- 2011 年 JHUPHO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)
- 2012 年 KHUPO 山田 哲司
- 2012 年 JHUPHO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)
- 2013 年 KHUPO 朝長 毅
- 2013 年 JHUPHO KHUPO7 名の HUPHO2013 によるサポートで対応
- 2014 年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)
- 2014 年 JHUPHO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)
- 2015 年 KHUPO 荒木令江
- 2015 年 JHUPHO Bonghee Lee (Gachon University)
- 2016 年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花
- 2016 年 JHUPHO Kwang Pyo Kim
- 2017 年 KHUPO 服部成介, 野村文夫
- 2017 年 JHUPHO Cheolju Lee
- 2018 年 KHUPO 石濱泰
- 2018 年 JHUPHO Jo-Yoel Cho
- 2019 年 KHUPO 大槻純男、太田信哉
- 2019 年 JHUPHO Jinhwan Eugene Lee
- 2020 年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記 (中止)
- 2020 年 JHUPHO 中止
- 2021 年 AOHUPO (KHUPO 主催) 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記
- 2021 年 JHUPHO Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)
- 2022 年 KHUPO 足立淳
- 2022 年 JHUPHO Jin Han (Inje University)

●2023 年 KHUPO には小迫先生に行っていただく。なお HUPHO2023 が釜山で行われるため、同時に KHUPO2023 大会が行われるかを確認する必要があります。

8. 各担当理事からの報告

(1)学会誌(Proteome letters)編集活動(大槻)

●今年度第一号が最近刊行された。HPでの更新依頼あり、第二号は、今年度の受賞者3名の方が執筆了解済み。

(2) 学術企画活動(荒木)

●JPrOSから分子生物学会 workshopの申請を行い採択された。今年度は岩崎先生がマルチオミクスをテーマにしたセッションを企画。

(3) 教育活動(堂前)

●10/21と10/22に教育講座を行う予定、これから案内予定。

(4) 国際活動(近藤)

HUPO2023(韓国)について

●上述の通り。

(5) 広報活動(河野)

●今年度、具体的な行動はできていない。イニシアティブなどで決定すれば広報する予定(国内中心だが、今後は海外も検討)。

9. 2021-2022年度主催・後援・協賛実績

●今年度はなし。

10. その他

●ホームページの更新ができていないので、管理体制の見直しが必要。役割分担が明確ではない、広報の方で、デザインリンクへの通知などを担当する必要がある(庶務と広報で相談)。

【審議事項】

1. 2021年度収支決算報告および2022年度予算案（杉山）

【2021年度 一般会計収支決算書】

2021年4月1日～2022年3月31日

経常収益（収入）	8,623,134 円
《内訳》	
受取会費	1,474,000 円
（個人会員）	824,000 円
（法人会員）	650,000 円
事業収益（2021年大会）	3,069,000 円
（受取参加料）	1,089,000 円
（受取広告料）	385,000 円
（受取展示料）	495,000 円
（ランチセミナー）	1,100,000 円
受取負担金	100,000 円
（シンポジウム共催費）	100,000 円
受取寄付金	80,000 円
（受取寄付金振替額）	80,000 円
受取補助金等	3,900,000 円
（JPDM国際情報発信強化）	3,900,000 円
雑収益	114 円
（受取利息）	114 円
特定資産運用益	20 円
（特定資産受取利息）	20 円
経常費用（支出）	6,212,886 円
《内訳》	
事業費	5,095,814 円
大会	1,195,137 円
（通信運搬費）	98,890 円
（支払手数料）	51,247 円
（委託費）	1,045,000 円
助成	3,900,677 円
（旅費交通費）	790,010 円
（通信運搬費）	224,160 円
（消耗品費）	1,213,517 円
（印刷製本費）	1,194,710 円
（賃借料）	379,478 円
（支払手数料）	98,802 円
管理費	1,117,072 円
（通信運搬費）	1,260 円
（印刷製本費）	303,215 円
（支払手数料）	24,410 円
（委託費）	612,200 円
（雑費）	175,987 円

2021年度 正味財産増減額；	2,251,331 円
➢税引前一般正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)；	2,410,248 円
➢法人税、住民税及び事業税；	78,917 円
	(法人住民税70,000円 + 利息税金16円)
➢指定正味財産増減額；	△ 80,000 円
	(一般正味財産への振替)
正味財産合計(純資産)	13,269,906 円(2021年度繰越金)
➢2020年度 繰越金；	11,018,575 円
➢2021年度 正味財産増減額；	2,251,331 円

【貸借対照表】

2022年3月31日現在

(資産の部)	
資産合計	15,020,034 円
流動資産	
現金預金	14,837,371 円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (35543261)	9,917,821 円
2022年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (55997051)	1,904,835 円
2021年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (01404871)	3,014,715 円
JPDM国際情報発信強化 普通預金	
三菱UFJ銀行 (0195336)	0 円
2022・2023年大会 前払金	182,663 円
(負債の部)	
負債合計	1,750,128 円
未払費用 (4月に支払う会計事務所費3月分)	27,500 円
前受会費 (2022年度法人会費)	150,000 円
前受金 (2022年大会協賛金)	1,485,000 円
預り金 (12~2月分の会計事務所報酬に対する源泉徴収)	8,728 円
未払法人税等	78,900 円


資産合計 — 負債合計 = 13,269,906 円 (正味財産合計)

●上記について、理事会で承認された。

令和3年度（2021年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和3年度（2021年度）の収支決算
 について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和4年 6月7日

会計監査 高尾 敏文 

会計監査 小田 百哉 

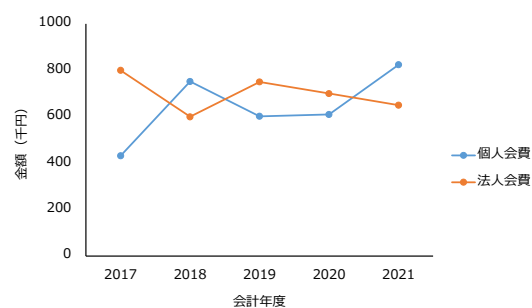
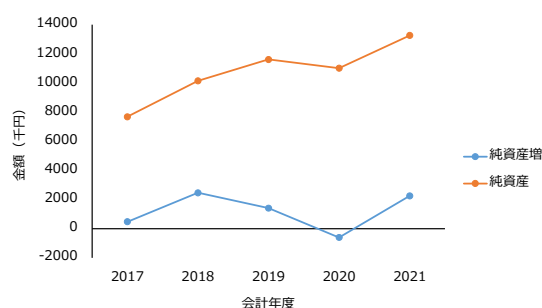
監査時のコメント

科研費の使い方について

- ・ 年度末に執行が集中している。旅費の使用が大きく、使用者が限定されている。
 - ◇ 計画的、効率的に執行すべき(コロナ禍の影響で当初計画の実行が難しかった)
 - ◇ 会議はオンラインで可能ではないか
- ・ 立替払の金額が大きい。個人の負担増、不正につながる可能性あり
 - ◇ 学会でカードを所有するのはどうか。

その他

- ・ 繰越金が増えているので、会員に対して使用計画を説明すべきではないか
- ・ 新たな収入源(年会費、参加費以外で)



●監査時のコメントについて議論を行い、問題はないことが理事会で確認された。

●繰越金の利用について議論され、以下のような意見が出された。

- 1、国際化などの基金として数年単位で利用するのが良いのでは？
- 2、学会としての方向性を決めて、お金の使用先を決めないと、なかなか決まらないのでは？
- 3、現状は年会に対して、返金を期待しない援助があっても良いのではないかと？

●理事会内でのメールでの意見募集を行うことを決定した。

【令和4年度（2022年度）予算(案)】

収入	26,609,006 円
《 内訳 》	
2021年度繰越金	13,269,906 円
受取会費	
（個人会員）	800,000 円
（法人会員）	650,000 円
事業収益	
（2022年大会開催収入）	6,989,000 円
受取寄付金	0 円
受取助成金	4,900,000 円
雑収益	
（利息）	100 円

支出	26,609,006 円
《 内訳 》	
事業費	
（2022年大会開催経費）	7,837,000 円
管理費	
（通信運搬費）	10,000 円
（消耗品費）	10,000 円
（印刷製本費）	300,000 円
（諸謝金）	10,000 円
（支払手数料）	30,000 円
（委託費）	
— Web運営維持管理費	140,000 円
— 会計事務	480,000 円
（雑費）	
— 学会賞、トラベルアワード関連	500,000 円
科学研究費助成事業費	4,900,000 円
税金	70,000 円
予備費（2022年度繰越金）	12,322,006 円

●2022年度の予算案について説明があり、理事会で承認された。
 （赤字分は学会費によるものであるが、コロナ対応のため必要であったものとして説明された。）

2. 2024年大会及び2025年大会(小寺)

年	開催地/大会長
2003	第1回 つくば/中西洋志
2004	第2回 東京/戸田年総
2005	第3回 横浜/平野 久
2006	第4回 東京/西村俊秀
2007	第5回 東京/磯邊俊明
2008	第6回 大阪/高尾敏文
2009	第7回 東京/前田忠計
2010	第8回 千葉/山田哲司
2011	第9回 新潟/山本 格
2012	第10回 東京/高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜/平野 久
2014	第12回 つくば/成松 久
2015	第13回 熊本/荒木令江
2016	第14回 東京/服部成介
2017	第15回 大阪/朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪/石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎/榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京/紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島/小迫英尊
2022	第20回 神奈川/小寺義男
2023	第21回 新潟/松本雅記
2024	第22回
2025	第23回

3. 理事任期について(小寺)

- 理事の任期を2年とすることが議論された。次回理事会までに決定することについて共有された。
- 理事の推薦について議論があり、現状無制限に推薦できることについて、また、会長指名による理事の推薦についての人数制限を決めてはいかがかという議論があった。

4. 名誉会員について(小寺)

- 小寺先生より、これまでの20年で貢献の高い方についてまず名誉会員になっていただく必要があり、リストアップをおこなっているとの説明があった。名誉会員としての何らかの貢献を期待するのかどうか(学会の歴史を編纂していただくなど?)、も検討してはいかがだろうか? との意見も出された。

5. 学術誌から購入した別刷りについて(大概)

- 学術誌(プロテオームレター)の別刷を購入して、ブース等で配ることについては問題ないとの認識が共有された。
- 4月に個人情報保護法が施行され、レポジトリの登録する場合、変更がある場合はオプトアウトが必要との話があった。

6. その他

- HUPO ECRメンバー(現在岩崎先生)の任期が2年であり、次の候補を設定する必要があるとの話があった。